

奥州市議団:新型コロナ感染の拡大を受け緊急申し入れ!

民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢字久田 62
Tel 24-2021
Fax 24-2049



日本共産党奥州市議団は、4月25日、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生するなど感染拡大に歯止めがかからないことから、倉成淳市長に緊急の申し入れを行いました。申し入れには市長は公務多忙だとして小野寺隆夫副市長、各担当部長、担当者に対応しました。「申し入れ」事項についての奥州市側の対応について紹介いたします。(申し入れ全文は裏面参照)

3回目のワクチン接種の早期・確実な促進を!

3回目のワクチン接種について、60歳以上の方について期日・場所を指定して進めており、国(49・8%)や岩手県(52・3%)より奥州市(57・54%)は接種率が高く順調に進んでいるとし、3回目については夜間や金曜日の集団接種は行っていないと

奥州市議団は、若年層の感染にかかわり、「市の説明だと12歳以上17歳以下は開業医での接種となっておりが、10代の方の前倒し接種が必要だとして改めて検討することを求めました。

担当者は、今後12歳以上17歳以下の若年層への接種について、集団接種会場での接種も検討したいと回答しました。

PCR検査について

岩手県によるPCR検査の定期検査は、子育て施設は先週・先々週と行われ、

4〜5人の陽性者が出ている。学校の方も検査が進められている。今後の検査については「岩手県において状況を見て検討される」と説明しました。

市民への無料の検査は、5月以降もが受けられるよう岩手県にお願いしていきたいと回答しました。

抗原検査キットの無料配布について

抗原検査キットは、教育・保育施設、高齢者施設や障がい者施設などに配布されている。岩手県のPCR検査対象にならない人のために配布されており、必要などところで抗原検査が行われている状況だと説明。高齢者施設で6割弱、障がい者施設で3割強の使用率になっていることを明らかにしました。

ワクチン接種の副反応対策について

ワクチン接種による副反応については、奥州市として相談対応した例はないことを明らかにしました。

副反応については、かかりつけ医でまず受診していただくようワクチン接種時にチラシで周知している。

専門的

治療が必要

な場合は

岩手県立胆

沢病院が指定病院になって



日本共産党
参議院議員
いわぶち友

4月25日

国の責任を認める判決を

「生業を返せ、地域を返せ!」福島原発訴訟」のみなさんが最高裁での弁論にあわせて最高裁行動と報告集会。

福島県内からも、全国からたたかう仲間みなさんが駆けつけました。

し、医療費がかかる場合(国が認めたもの)は、予防接種法に基づく健康被害救済制度の案内をすると説明しました。

共産党議員団から紹介があった事例について、「県立胆沢病院での受診を勧めている」状況だと回答しました。

事業所支援について

事業所支援については、今年2月議会の補正予算で決まった事業(キャッシュレス決済支援事業、宿泊促進、観光バス利用促進、タクシー割引チケットなど)の準備を進めており、連休明けからの実施になること、また6月議会へ向け追加事業の要求を現在だしている」と回答しました。

第93回メーデー胆江地区集会について

先々週の「民報おうしゅう」(4月17日号)で開催案内を掲載いたしましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、メイン集会は中止となります。

主に、「街頭からの宣伝」となります。

**5月1日(日)午後1時30分から、
「スタンディング」
慶徳公園前(東通り)。**



(写真はフェイスブックより)

事故を防ぐことができたのに対応を怠った国の責任は重い。原発事故で11年も続く苦しみ、奪われたものは取り戻すことができません。国の責任を認める判決を。